１．北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 （北海道）	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	スーパー（店長）	来客数の動き	・天候に大きく左右されるが消費は堅調で来客数も増加の兆しがある。ただし、前年、爆発的に伸長した家電製品については、反動が大きすぎるため、影響を除外しての回答である。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・年金支給日が買物動向に与える影響が顕著である。６月12日以降、一時的に売上は前年の110％程度まで上昇している。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・公共事業や土木建築など、前年の東日本大震災による自粛等により、止まっていた案件が動き出している。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・観光シーズンに入っているため、若干であるが、週末や連休に当地への観光客が来店している。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・売上は前年を超えたが、格安価格帯のメニューが多く、経費が増えて減益となった。前月より来客数が増えたが、たまたま料理で反響があったようだ。特に、最近注目されている調理方法である野菜の「50度洗い」をした料理を提供したところ、反応が顕著であった。
		観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・大型の学術大会、イベントが開催され、比較的高単価の客を取り込むことができた。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年の東日本大震災震災の反動から、今年の４～５月は伸びを期待したが、予測よりも低い伸び率であった。６月になってようやく航空座席予約数が伸びてきた。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・夏商戦に入り、通信機器への予約や問い合わせの件数が回復している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・24日時点での比較になるが、３か月前の３月の来客数は前々年比で約93.4％であった。今月は同じく24日時点で、前々年比で99.6％となっており、３月よりもある程度の回復基調を数字からも感じることができる。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・観光繁忙期に入り、来場者が前々年並みに戻りつつある。ただし、東南アジアを始めとした海外からの来場者は減少している。
		美容室（経営者）	単価の動き	・以前は内容が良くても、価格が高いと売れないといった傾向が顕著であったが、最近は価格が高くてもそれに見合う内容の物であれば買ってもらえる場合が増加してきている。
		その他サービスの動向を把握できる者［フェリー］（従業員）	来客数の動き	・観光最盛期にさしかかり、乗客数が増加している。ただし、東日本大震災発生以前の乗客数には達していない。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・北海道の場合、季節的な面もあるが、前年と比べて客の動きが多い。成約率も高くなっている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・小売業、特に路面店にとっては、夏は売上が期待できるシーズンである。なかなか収入も上がらず、消費税の増税問題の話がされるなかで、マインド的には消費を抑えられているが、季節商材の動きが少しずつ上昇してきている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応は以前と変わらず、変化がない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今月中旬までは、低温や雨といった天候不順の影響のためか、来街者数が予想より少なかった。特に、無料バスチケットを利用する高齢者の買物客が施策開始当初こそ増加していたが、ここにきて落ち着いてきている。
		一般小売店［土産］（経営者）	来客数の動き	・中国本土からの観光客はまだ戻っていない。天候不順が消費の落ち込みに追い打ちをかけている。また、政府が東日本大震災の復興を置き去りにして、消費税の増税ばかりであると国民の目に映っており、政府に対する先行き不安から客が慎重になっている。客単価も2400円あったものが、1800円くらいまで落ち込んでいる。

		一般小売店［酒］（経営者）	販売量の動き	・今月は３か月前と比べると天候も良く、夏の時期に入って気温も高くなってきているため、飲料水関係が堅調であった。ただし、今月の月初めは一番売上の多い金土で始まり、月末も金土で終わったという事情を考慮すると、売上自体は悪くないが、それほど良い状況でもない。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・前年に競合他店の開店効果による来客数の増加があり、単純比較では来客数の大幅減となっているものの、こうした特殊要因を除けば基調は大きく変わらない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・今月も売上は前年割れで、相変わらずの下降トレンドではあるが、販売量は前年比で微増の102%であった。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・客単価が前年比で1.7%上昇しており、わずかに上昇している。しかしながら、来客数が2.0%強低下している影響で、既存店ベースの売上は約0.8%落ち込んで推移している。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前年のたばこ品薄による特需の反動があるため、前年比の数字を単純に比較することはできないが、来客数は前年並みを維持している。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・気温の上昇とともに夏物の着物と秋冬物の展示会催事での高額な消費があった。売上は前年同様に良かった月であった。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・月後半になり天候が回復し、夏物家電がよく動いた。
		その他専門店［ガソリンスタンド］（経営者）	販売量の動き	・依然として自動車用燃料の販売量が低調である。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・平日は、仕事帰りの常連客が目立つが、週末は昼夜とも年配の夫婦、団体客が多い。季節が良くなり、修学旅行生や観光客を電車及び観光スポット付近でよく見かけるようになり、来客数も前年比110%とほぼ東日本大震災前の水準に戻っている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・大型案件の発注が例年より早めにみられる。客の心理としては購買力が上がってきているように見えるが、数値は東日本大震災のあった前年の４～６月と比べて100%推移のため、決して良くはない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・６月はＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭りなど、初旬に大きなイベントがあり、前年の東日本大震災後の落ち込みよりも大幅な増収を期待したが、若干の増収であった。前々年の６月の売上までは回復していない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・３か月前と今月の販売量の動きが大きく変わっていない。また、前月は若干持ち直しの傾向もみられたが、今月に入って、若干前年を下回っている状況もみられる。そうした流れから、それほど大きな変化はないとみられる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・前年と比較すると、前年比114%と伸びているため、東日本大震災の影響はほぼなくなったとみられる。３か月前と比較しても100%で推移しているため、景気は変わらないと判断した。
		タクシー運転手	来客数の動き	・注文数が前年並みで推移している。観光客が減り、ゴルフ客が増えた。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・政治の混迷、株式市場の低迷の影響を受けて、客のムードが非常に悪い。
		住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・競合企業のマンション成約戸数は、地域によって多少むらがみられるが、全体的には横ばいである。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税の増税が決まりそうなため、先行きの景気に対する不安から客の財布のひもが固い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・６月のボーナス時期にもかかわらず、来客数が増える日が特にみられない。また、平日と土日についても、前年と比べて来客数に変化がなく、盛り上がる日がなかった。

		百貨店（売場主任）	単価の動き	・４月の売上は前年比97.1%、５月の売上は前年比95.5%、６月の売上見通しは前年比95%と３か月連続で前年割れの状況である。買上客数は４月が前年比93.6%、５月が前年比95.9%、客単価は４月が前年比103.7%、５月が前年比99.5%の推移だったが、６月の見通しは買上客数、客単価とも前年比95%前後であり、買上客数だけでなく、客単価も下がってきている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・今月に入り、来客数が減少傾向になっている。加えて、買上客数も減少傾向、客単価も低下傾向となっている。
		百貨店（役員）	販売量の動き	・６月24日までの異常なほどの低温で夏物の初期需要がほとんどなかった。ここにきて気温の上昇がみられるが、消費者の心理まで届くかは不明である。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年のたばこの売上増加の反動が大きく、客単価の低下がみられ、前年比では苦戦している。たばこの反動減は今後も継続する要因であるため、それ以外のカテゴリーでの伸長が必要だが、来客数の動向も鈍い。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・大型イベントを含めて、毎週土日のイベントの際の来客数が以前と比べて減ってきている。それに伴い、受注量も比例して減少気味である。
		その他専門店［医薬品］（経営者）	来客数の動き	・年金の支給月とはいえ、来客数の増加が望めない状況にある。年金が６月から減額されたことも影響がある。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数は10%程度減少している。色々な面で客が消費を抑える傾向がある。
		パチンコ店（役員）	それ以外	・これから本格的な夏を迎えるなか、原発停止に伴う電気使用量の低減により、全分野において、大小かかわらず影響が出てきている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・毎回のことであるが、不景気で景気の良い話は１つもない。
	悪くなっている	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・６月は冷夏で日中の気温も上がらないうえ、雨の日も多く、非常に衣料品の動きが厳しい。婦人物、紳士物とも、夏物商材、半袖、ニット、カットソーの動きが厳しく、加えて紳士服のスラックス、ジャケットの動きも厳しい。ハンドバックは前年並みだが、夏物のサンダルも厳しい状況にある。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食品関連は好調だが、衣料品や生活関連がかなり苦戦している。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・前年の地上デジタル放送への完全移行前のテレビの駆け込み需要の反動が予想以上に出ており、非常に厳しい状況である。
企業動向関連 (北海道)	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	建設業（従業員）	取引先の様子	・鉄骨加工業界では、民間大型建築工事の着工や農業関係補助事業の発注で、秋口までの生産量がほぼ満杯となっている。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注の絶対数、商談数は確実に上向いてきている。同業者の動きをみても同様である。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・地場の農作物収穫やいか釣り漁業の操業が始まり、観光客も増加が見込まれ、時期的に地域経済の景況に明るさが感じられる。
		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注状況が、やや悪いままで変わらず推移している。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・マンション物件が活況であり、今月に開催した見本市では、前年より多くの受注成約があった。
		金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・建築業界を含めて、景気が上向きになるような良い話をあまり聞かない。受注量や販売量をみても上向きではない。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・前年は東日本大震災の影響を受けて、代替港として特段の取扱量を記録したが、新年度に入ってからの３か月間の取扱量に大きな変化はみられない。震災復旧の物流を期待するも、具体的案件がみられず、盛り上がりに欠ける。
		金融業（企画担当）	それ以外	・観光関連は、外国人観光客を含めてほぼ東日本大震災前の水準に戻った。設備投資は医療福祉関連の新増設が底堅い。個人消費はエコカー補助金が追い風となり、乗用車販売が好調である。一方、低温傾向から春物衣料が低調であった。

		司法書士	取引先の様子	・不動産関連の業種は依然として低い水準で推移している。土地の価格が下落傾向にあることも、客が積極性をなくしている１つの要因とみられる。
		司法書士	取引先の様子	・依然として不動産の取引は低調である。景気回復の兆しはなく、先行き不透明な状況に変化はない。与党も野党も政局ばかりで、国民が納得するような政策がないため、大型消費が手控えられ、何年も景気に変化が起きない状況にある。
		その他サービス業［建設機械リース］（支店長）	取引先の様子	・地域の大手、老舗建設業者の倒産が続いた。金融機関の支援姿勢が弱いためとみられる。
	やや悪くなっている	その他非製造業［鋼材卸売］（役員）	受注量や販売量の動き	・気勢は良かったが、購入量は控えめで、販売量、販売額ともに厳しい状況であった。
	悪くなっている	その他サービス業［ソフトウェア開発］（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年度の始まりから、受注の確定が極端に遅くなってきている。
雇用関連 （北海道）	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年は東日本大震災の影響が、求人面では落ち着き始めた時期だったが、その時期と比べても求人数が約30%の増加となっている。特に宿泊や娯楽関連の業種が元気になってきている。
		新聞社［求人広告］（担当者）	求人数の動き	・６月の募集広告の売上は、前年比130%と前年を大きく超えた。売上の大きい小売・流通が前年比144%、派遣が前年比127%と大幅に伸びたほか、飲食、自動車、運輸・運送も前年を上回った。非正規社員の募集が多いため、雇用環境の改善に直接つながっているかは不明だが、特定の業種で地域企業の業績が上向いているのは確かである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から18.4%増加し、28か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数も前年から20.2%増加し、28か月連続で前年を上回った。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・企業の業績が上向かないようであるため、企業からの求人で、営業の求人ニーズが高まっている。経営者との話からも、良い営業マンがいない、営業の求人を出しても良い人材が集まらないという話が多い。景気の低迷が続くなか、企業ニーズと仕事を探す求職ニーズがミスマッチになっている。新卒者の就職活動をみても、事務職志向が強く、そのために就職が決まらないケースも多い。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・景気の良し悪しが、求人数や求職者数にあまり関係ないと思いたいが、求職者数が減るのと同時に求人数も減っている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ここ３か月ほど、求人件数は小売、飲食で増加傾向にあるが、農業関連の生産加工パートの派遣以外は落ち着きの傾向となってきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・観光関連の業種については、前々年の東日本大震災前の水準に戻ってきているとの明るい声も聞こえてくるが、それ以外の建設業やその他の地元企業に関しては厳しい声が多い。好材料とそうではない材料が混在している様子である。
		職業安定所（職員）	それ以外	・管内の求人倍率は0.47倍と前年を0.09ポイント上回ったが、全国はもとより全道平均より0.03ポイント低く、依然低い水準である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・今月も前月に引き続き、新規求人数は前年より増加しているところではあるが、新規求人数の一番多い医療、福祉業界は慢性的な人手不足の業界であり、そのため充足されない更新求人が多い。また、次に求人数が多かった食料品製造業においても、契約期間満了による退職者の欠員補充のパート求人であることから、景気の上向きによる増加とは判断できない。

		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・５月の新規求人数は前年比16.1%の増加となった。新規求職者数は前年比1.0%の増加となった。月間有効求人倍率は0.62倍となり、前年の0.48倍を0.14ポイント上回った。新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は41.4%であり、依然として求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・食品製造加工や情報通信業など、一部の業種で求人広告件数が前年を下回り始めてきた。
	悪くなっている	－	－	－